

鼠径ヘルニアについて

小金井中央病院
外科医 志村 国彦

鼠径ヘルニアとは

下腹部で足の付け根の部分を鼠径部といいます。立ち上がったたりおなかに力をいれたりすると鼠径部が膨らんできて、押し込んだり仰向けに寝ていると元に戻るといった症状を呈するのが鼠径ヘルニアです。ヘルニアとは臓器または組織が裂隙を通じて、その本来存在する場所から脱出する状態をいう言葉です。鼠径ヘルニアでは筋肉や筋膜の裂け目を通して腹膜をかぶった腹腔内臓器（腸管であることが多い）が外に飛び出して膨らんでいきます。一般的に“脱腸（だっちょう）”とも呼ばれていますが、飛び出してくるのは腸だけではなく、大網という脂肪組織や女性では卵巣が脱出してくることもあります。

どうしてできるのか

鼠径ヘルニアは乳幼児から老人までおこる疾患ですが、小児と成人では成因が若干異なります。

①小児の場合

男の子は胎生期、睾丸（精巣）が腹腔内にありますが、生まれる前に陰嚢まで降りてきます。そのときに腹膜を引っ張りながら下降してくるのですが、通常は引っ張られた腹膜は自然に閉鎖してしまいます。ところが閉鎖が起こらないと引っ張られた腹膜が袋状に残存し、ヘルニアとなります。

女の子では睾丸のかわりにヌック管とよばれるものが大陰唇に向かって伸びていきますが、男の子の場合と同様に腹膜が引っ張られ、閉鎖しないときにヘルニアとなります。

②成人の場合

腹壁は胸部のように骨でおおわれておりませんが、腹筋群・筋膜等の強い組織でおおわれているため、腹腔内臓が垂れ下がることなくおさめられています。しかし、鼠径部は解剖学的にも腹壁の構造が弱いため、加齢により組織が弱くなると腹圧に負けて腹膜を被った腹腔内臓器が押し出されヘルニアが発生します。また、便秘や前立腺肥大によるいきむ排便や排尿習慣・重いものをもつ仕事・慢性肺疾患に伴う咳の持続・内臓脂肪の多い肥満などの、慢性的に腹圧が高くなりやすい方にヘルニアが発生しやすく、治療（手術）を行っても再発しやすい傾向にあります。



なぜ治療が必要なのか

鼠径ヘルニアが存在すると、脱出した腹腔内臓器がはまり込んで元に戻らない状態になることがあります。この状態を鼠径ヘルニアの嵌頓（かんとん）といって緊急的な処置が必要となります。このまま放置すると脱出した腸などが壊死をおこし、腹膜炎となり重症化します。この嵌頓を未然に防ぐために治療が必要と考えられます。



治療法は

鼠径ヘルニアは、手術をしなければ治すことはできない疾患です。以前はヘルニアバンドといって表面からベルトなどで押さえ込む治療が行われておりましたが、現在ではその効果は疑問視されています。

小児のヘルニアでは袋状に飛び出した腹膜の切除のみで十分とされていますが、成人のヘルニアでは弱くなった腹壁の補強を行わないとヘルニアが再発してしまいます。腹壁の補強法として以下の方法があります。

- ①縫合法：弱くなって穴のあいた腹壁を、周囲の健常な腹筋群・筋膜を縫合することによって閉鎖・補強する方法です。
- ②メッシュ法：縫合・閉鎖は行わず、メッシュという人工の膜で腹壁の弱い部分を補強する方法です。利点は①と比べ、術後の疼痛が軽い・再発率が低いといった長所があります。欠点は人工物であるために感染に弱く、おこってしまうとメッシュを取り外すまで治癒が得られないこともしばしばです。

最近ほとんどの病院で成人の鼠径ヘルニアに対し、メッシュ法で手術が行われています。

ヘルニアがあるからといって必ず手術をしなければならないというものでもありません。ご心配な方は一度、外科外来を受診してみてください。

* 慢性腎不全と透析療法 *

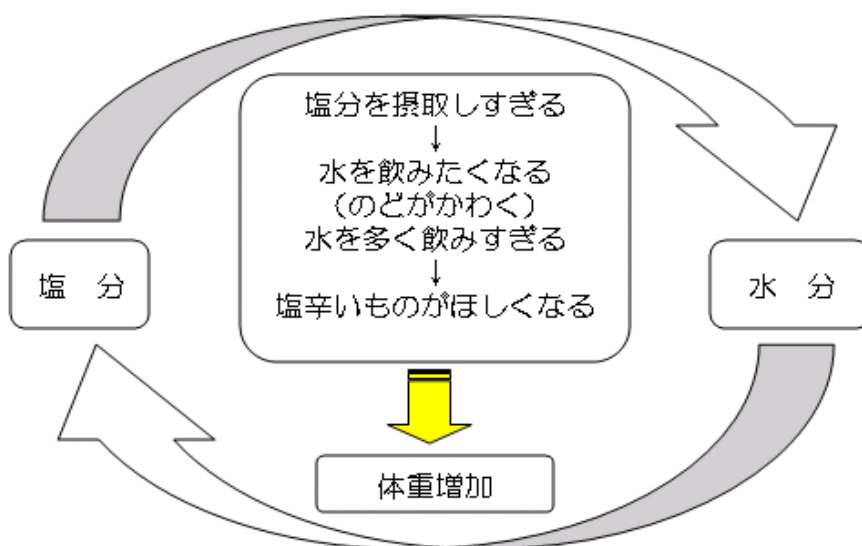
小金井中央病院
透析室主任 菓子田 智子

腎臓は、主に体にたまった老廃物や余分な水分を尿として、体の外へ排泄する働きをしています。腎臓の働きが徐々に悪くなり、正常な状態に戻らなくなることを慢性腎不全といいます。慢性腎不全になり腎臓の働きがさらに悪くなると、尿毒症となり、生命の維持が出来なくなります。透析は悪くなった腎臓の代わりに、体にたまった老廃物や余分な水分を、透析装置を使って体の外へ排泄する療法です。

透析患者の水分・塩分管理

透析患者の食生活の基本は、第一に水分・塩分の摂取量を抑えることです。人間の体は本来、水分だけを制限しても、塩分を制限しなければ血液中の塩分濃度が上昇してしまいます。すると、どんなに我慢しようとしても、塩分濃度が適正值に下がるまで無意識に水が欲しくなります。(塩分8g摂取につき1ℓの水分を無意識に摂ってしまいます)。これは、血清浸透圧保持のためといわれています。透析間で体に溜まる水分の量は、理想体重(これは人によって異なります)の5%以内の理想です。体重50kgであれば2.5kg迄ということで、1ℓの水を飲むと言う事は、体重が1kg増えたということになります。

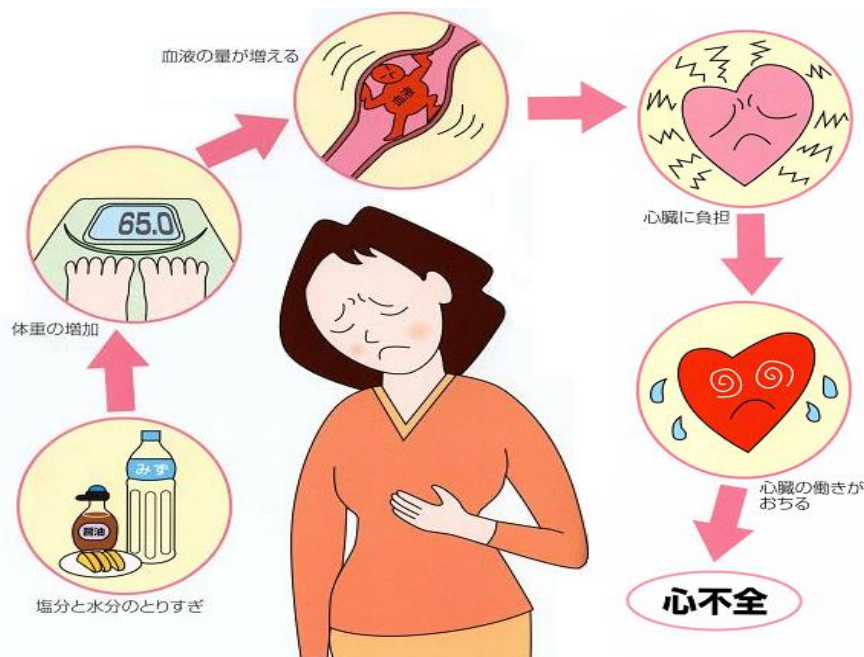
図 塩分と水分の関係



- * 飲水の中には氷・ジュース・コーヒー・お茶・ビール・味噌汁なども含まれます。
- * うがいを1回すると6~10mlくらいの水を飲み込んでしまいます。

なぜ体重の増加が多いといけないの？

塩分を取りすぎると喉が渇き、水分が欲しくなります。本来なら取りすぎた塩分と水分は尿として体の外に排泄されますが、腎不全になるとこれらが体内に溜まってしまいます。そのため水分の摂取量が多いと体内の水分量が増え、心臓や肺に水が溜まり、心臓に大きな負担がかかります。これが長く続くと、心臓の働きが落ちてきて心不全につながります。心不全は透析患者の最も高い死亡原因とされています。



副作用や合併症を予防しよう!!

また、水分を取りすぎると、透析中に副作用（低血圧、吐き気など）が発生しやすく、その後の合併症（心不全・高血圧・肺水腫など）も引き起こしやすくなります。副作用、合併症を防ぐためにも、水分・食塩のコントロールがとても大切になります。

思い出してみてください！！

現在全国で 25 万人もの方が透析療法を受けています。透析療法を受けている患者さん自身は大変な努力をして、水分管理をしています。皆さんの身近にも何らかの病気で、食事や水分管理をしている方がいらっしゃるいませんか？そんな時にちょっと思い出してみてください。